

CALCON 2015 に参加して

2015年7月12日から16日にかけてアメリカ合衆国 Maryland Baltimore Inner Harbor にて、2015年度第70回 The North American Calorimetry Conference (CALCON) が開催されました。当センターからは東が参加し、口頭発表を行いました。また、筑波大学から齋藤一弥教授が口頭発表を、松尾隆祐大阪大学名誉教授が Huffman 賞記念講演を行われました。

CALCON には、産学官から幅広い科学者が参加し、熱測定手法や測定技術の発展について多くの意見交換がなされています。発表者の専門分野は生物、化学、物理と多岐に渡っています。具体的には薬学、生熱力学、環境科学、流体科学、凝集系、ナノ科学、高分子科学、シミュレーション科学など非常に多くの分野から参加されていました。発表は Huffman 賞記念講演 8 件、受賞講演 3 件、口頭発表 46 件、ポスター発表 7 件がありました。

今回第70回の節目を迎えた CALCON ですが、過去の Huffman 受賞者が数多く参加されており、当時該当分野の最前線にいた方々のお話を多く聞くことができました。精力的な研究をされた方々からの経験談は大変参考になり、研究を続ける上での大きなモチベーションとなりました。一方で通常の口頭発表は和やかな雰囲気であったので、参加者は皆緊張せずに発表や質問を行うことができました。当センターから東が「Investigation of the Unique Freezing Behavior of Antifreeze Protein by Adiabatic Calorimetry」という題目で発表しましたが、和やかな雰囲気ながら質問やディスカッションは鋭くかつ積極的に行われたため、多くのアドバイスをいただき、勉強になりました。発表でのディスカッションで自身でも把握してなかった事柄をいくつかご指摘していただいたので、研究で役立てることができました。

Baltimore は滞在期間中非常に穏やかな気候で過ごしやすく、名物のカニサンドも大変美味でした。学会参加者から Baltimore のおすすめ観光名所をいくつか紹介していただいたのですが、時間の都合で回り切れなかったことが心残りです。ホテルへの帰り道半ばで現地の親切な方と Baltimore の風土や住民としての評価など1時間ほど世話をしたことは記憶に残る出来事でした。

(東 信晃)



CALCON 2015 会場のホテルにて。日本熱測定学会からの参加者。左から松尾隆祐大阪大学名誉教授、松尾和子夫人、報告者、齋藤一弥筑波大学教授。